

コルクウッディフローリング

施工説明書 CWP | モルタル合板下地用床材

この度は弊社床材をご採用いただき有難うございます。製品の特性を十分に生かし、安全でより美しい仕上がりに施工していただくために施工前には必ず施工説明書をご一読ください。

この施工説明書には、あなたや他の人への危害や財産の損害を未然に防ぎ、製品を安全にお使いいただくために守っていただきたい事項を示しています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

施工前の注意事項

1 下地

モルタルが十分に乾燥してから床材を施工してください。
(打設後3週間以上、含水率10%以下)

乾燥が不十分な場合、沈み、床鳴り、浮き、突き上げ等の原因になります。

乾燥状態の簡単な確認方法

モルタル上に1昼夜放置した新聞紙が湿らない程度

モルタル表面をビニールでおおい、1昼夜おいた後ビニールの内側が結露していない程度

モルタルは平滑に仕上げ、不陸は1mにつき3mm以下にしてください。
3mm以上の場合は建築側に事前に補修を依頼してください。
モルタル表面の付着物や突起物は削って平滑にしてください。
モルタル表面の砂やゴミは接着不良の原因となります。十分に清掃してから施工してください。

2 保管

- 直射日光や雨を避け、高温多湿でない風通しの良い場所に水平に保管してください。
- 開梱後、長時間放置しないでください。(施工が翌日にかかるときは、再梱包してください。)

3 仮並べ

床材の表面は天然材を使用していますので1枚毎に色柄が異なります。
施工前に仮並べを行い、色柄のバランスを考慮して割付けてください。

品質管理には万全を期しておりますが、極端に色柄の異なったものがございましたら、販売店様、最寄りの弊社営業部門まで速やかにご連絡ください。

施工貼り替えや修繕は多大な労力と経費を要しますので、
必ず施工前に仮並べをしてください。

4 その他

幅木は必ず床材施工の後で施工してください。
幅木は部屋周辺部の床と壁の隙間が隠れる程度の厚さのものを使用してください。
本製品は屋内用です。屋外および土足での使用は避けてください。
施工は直貼りの接着工法です。釘は絶対に使用しないでください。
その他、ご不明な点がございましたら弊社営業部門までお問い合わせください。

施工の手順

1 施工に必要な材料・道具

床材

コルクウッディフローリング CWP:95×900×12.5mm、
36枚/ケース、3.07m²

下記のもが床材に同梱されているか確認してください。
クサビ 施工説明書(本書)

ウエス、溶剤(床材表面などに付着した接着剤を拭き取るため)

ゴムハンマー(黒色ゴムは床表面に付着しますので使用しないでください。)

墨つぼ 重し

養生シート 梱包用テープやガムテープなどを使用
養生テープ すると床材表面を傷める原因となります。

その他、丸鋸、かんな、さしがね等加工道具

施工用接着剤 ポントTCE-928R(低臭タイプ・ウレタン系)

| | |
|------------------|---|
| 室温条件 | 5 以下の場合硬化が著しく遅れますので、室温を5 以上に上げてから施工してください。 |
| 攪拌 | 攪拌の必要はありません。 |
| 塗布後貼り付け可能時間 | 塗布後40分以内 |
| 塗布量の目安 | 10m ² /4L(専用クシ目ゴテでムラなく塗布する) |
| オープンタイプ | 塗布直後から貼り合わせ可能です。オープンタイムをとっても粘着力は出ません。 |
| 再圧着 | 不陸などで床材が浮いている場合はよく押さえてください。 |
| 養生時間 | 実用強度3日 |
| 接着剤がフロア表面に付着した場合 | 硬化すると取れなくなりますので、付着したらすぐに溶剤などを含ませたウエスで拭き取ってください。(有機溶剤を使用する場合には、床材表面に影響が出ないか確認の上ご使用ください。) |
| その他 | 一度開封した缶はできるだけ早く使用してください。使用した器具類は使用后ただちに溶剤などで洗浄してください。 |
| 有効期間 | 製造後6ヶ月(未開封) |
| 特記事項 | 湿気厳禁 |

本製品は接着施工です。接着剤には、毒性がありますのでご使用の際には下記事項を十分に注意してください。



警告

接着剤には急性の毒性があります。

防止対策

窓やドアを出来る限り解放して十分な換気をとってください。

保管上の注意.....直射日光を避け、冷暗所に保管してください。

(労働安全衛生法等法令の定めるところに従う。)

接着剤の取扱い説明書もあわせてご一読ください。

施工の手順

2 下地の清掃

下地表面の付着物や突起は、金ペラ等でけずり平滑にした後良く清掃してください。
また、油が付着している場合も完全に取り除いてください。

油・砂・ゴミ等は接着不良の原因になります。



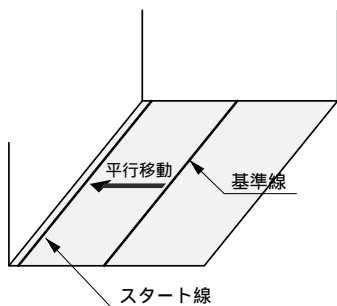
3 割付け・墨出し

部屋の中央部に基準線を引きます。

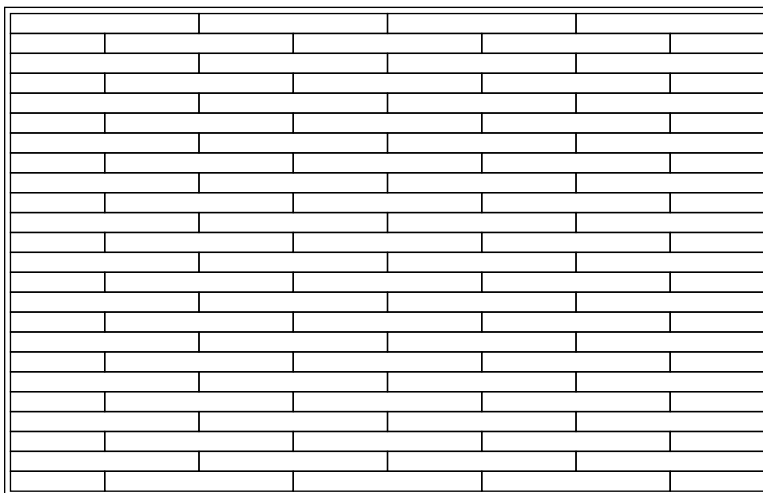
廊下部分などとの取り合いを考慮し、貼り始めの位置を決定し、基準線を平行移動してください。(廊下部分と目を通す場合は、廊下を基準にして貼り始めの基準線を決定すると割付けがうまくいきやすくなります。)

床材を仮並べて、色柄のバランスをとります。

縦のジョイントを同列に並べるレンガ貼りを基本とします。



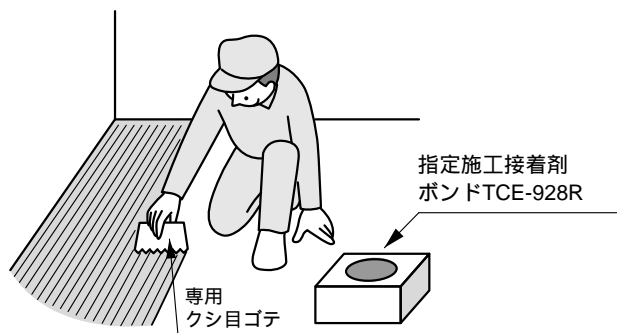
レンガ貼り



4 接着剤の塗布

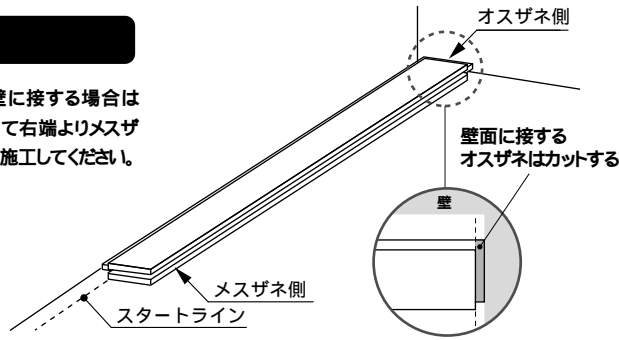
施工用接着剤ボンドTCE-928Rを専用クシ目ゴテを使用し下地面に塗布してください。
一度にたくさん塗布せず、床材1列分ずつ塗布してください。

必ず指定の接着剤・クシ目ゴテを使用してください。
(指定以外のものを使用すると床鳴りの発生や接着不良の原因となります。)
接着剤の説明書・注意事項をよくお読みの上ご使用ください。



5 貼り始め

床材を切断し、オスザネが直接壁に接する場合はオスザネを切りおとし、壁に向かって右端よりメスザネ側を手前にして基準線にそろえて施工してください。

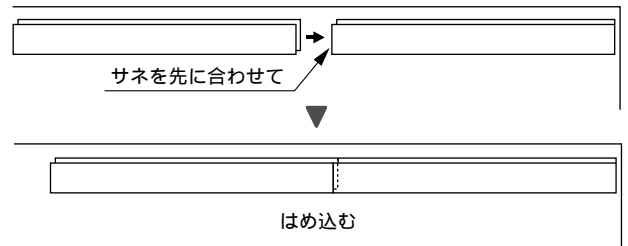


接着施工のため接着剤が硬化するまでは動きまですので、基準となる1枚目は動かないようにしっかりと固定してください。

6 2枚目以降の施工

1枚目のメスザネに2枚目のオスザネをのせながらサネを合わせ、スタート線に沿って貼ります。以下順次、基準線に合わせてサネを差し込みながら貼り進めます。

接着剤がはみ出した場合は、乾いたウエスまたは溶剤をしみこませたウエスですぐに拭き取ってください(水は不可)。硬化すると取れなくなります。

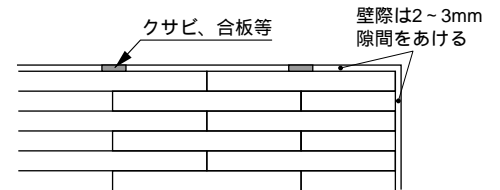


7 2列目以降の施工

2列目部分に接着剤を塗布します。
1列目のメスザネにオスザネをはめ込みます。この際、壁際は隙間をあげるようにしてください。
以下、順次貼り進めます。

床材の伸びを吸収するために、同梱のクサビや合板により壁際に2~3mmの隙間をあけてください。

隙間をあけないと、床材が伸びたときに突き上げや床鳴りの原因となります。



下地の不陸などで床材が浮く場合は、重りをのせてなじませてください。

8 貼りじまい

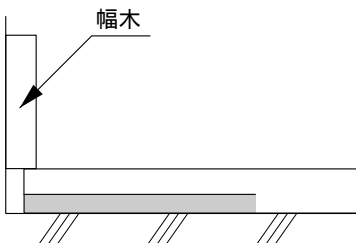
貼りじまいは、床材どうしに隙間が生じない程度に寄せて、合板または同梱のクサビで隙間をあけてください。

施工終了後、床表面を検査し、隙間がある場合は詰めて、接着剤がついている場合は速やかに拭き取ってください。接着剤は硬化すると、床材が動かず拭き取ることもできません。

きつく寄せすぎると突き上げの原因となります。ジョイント部どうしは軽くふれる程度に寄せてください。

9 幅木取付

幅木は、部屋の周辺部の隙間を隠すように施工してください。



10 養生

施工後は傷や水漏れから床を守るため、床をきれいに清掃し、養生シートを養生テープで止めて十分に養生してください。養生シートの上からペンキや雨水がかかったまま放置するとシミになることがありますので注意してください。
③ 全ての内装工事、設備工事が終わり、脚立や道具等を持ち込まなくなってから養生シートをはずしてください。

施工後は、換気を充分にしてください。高温多湿の状態で締め切っていると、床材の突き上げの原因になることがあります。